

## ハイバリアPETボトルの製造ラインを平塚工場内に新設 ～アルコール飲料や食用油、調味料向けPETボトルの需要に対応～

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社（本社：東京都千代田区 社長：姥貝 卓美）は、ワインや清酒などのアルコール飲料や食用油、調味料の容器として需要が伸長しているハイバリアPETボトルを増産するため、新しい製造ラインを平塚工場（神奈川県平塚市）内に設置することを決定しました。新ラインは2013年11月の営業運転開始を予定しており、この新ラインの立ち上げにより生産能力は2倍強となる予定です。なお、本件に伴う投資額は約10億円です。

当社のハイバリアPETボトルは、DLC（ダイヤモンドライクカーボン）技術<sup>※</sup>をベースとしたもので、一般的なPETボトルと比較して、酸素などのバリア性（遮断性）に優れています。優れたバリア性によってPETボトルの内容物の品質劣化を抑えられることに加えて、軽量で持ち運びが便利なこと、また、運搬時や小売店の店頭などで商品が落下した場合にも破損しにくいことなどがワインや清酒の大手メーカーから高い評価を受け、ガラス瓶や紙パックの代替容器として採用されています。特にPETボトル入りのワインや清酒の販売が好調に推移し、採用品目も拡大していることから、さらなる需要の伸長が見込まれています。また、食用油や調味料、ドレッシングなどのアルコール飲料以外の分野でも需要拡大が期待されています。さらには、優れた水蒸気バリア性を活かし、サプリメントや医薬品などの錠剤容器向けにも用途展開が見込まれています。

このような旺盛なハイバリアPETボトルの需要増加に対応するため、当社は、約10億円を投じて、同ボトルの増産を実施することとしました。現在のハイバリアPETボトルの生産は、浅井工場（滋賀県長浜市）にて行っていますが、東日本にも多くの有力顧客を有すること、またPETボトルの技術開発を平塚工場内で行っていること、さらには当社の事業再編に伴い平塚工場内の土地や建物などを有効活用できることから、新しい製造ラインは、平塚工場内に新設することとしました。西に位置する浅井工場に加えて、平塚工場内に新たに生産拠点を設けることで、日本全域をカバーする安定した供給体制を確立いたします。

当社は、ハイバリアPETボトルを容器事業の中核製品と位置付け、研究開発やマーケティングを強化し、さまざまな分野での需要開拓を積極的に進めてまいります。また、マーケットの状況を注視しながら、順次、需要拡大に合わせた生産能力の増強も検討してまいります。

<sup>※</sup>真空状態にしたPETボトルにアセチレンガスを充填しプラズマを発生させることで、薄い炭素膜を内面に蒸着させ、酸素などのバリア（遮断）性を大幅に向上させる技術。一般的なPETボトルと比べ、酸素で約10倍、炭酸ガスで約7倍、水蒸気で約5倍のバリア性を有します。なお、同技術は、キリンビール株式会社等の特許を保有しています。

【写真：ハイバリアPETボトル】



本件に関するお問合せ先  
(株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室  
電話：03-6748-7140

同時配布：重工業研究会、化学工業記者会、平塚記者クラブ